

統計に見る福島の教育

昭和52年度「学校教員統計調査」から

この調査の構成は、(1)学校調査、(2)教員個人調査、(3)教員異動調査からなっているが、ここでは、「学校調査」から結果の概要を見ることとする。

なお、学校調査における調査対象は、昭和52年10月1日現在、学校に籍を置く本務教員である。

表1 教員数の比較

	昭和52年度(A)	昭和49年度(B)	増減数 (A-B)	増加率 (A/B)
(公立)				(人)
幼稚園	566	451	+ 115	1.25
小学校	8,392	8,414	- 22	1.00
中学校	5,066	5,328	- 262	0.95
高等学校全日制	3,923	3,782	+ 141	1.04
〃 定時制	238	360	- 122	0.66
盲・聾・養護学校	364	324	+ 40	1.12
(私立)				
幼稚園	929	754	+ 175	1.23
小学校	48	-	-	-
中学校	34	-	-	-
高等学校(全日制)	681	678	+ 3	1.00

(注) 1. 実習助手は含まない。
2. 私立小・中学校の昭和49年度調査では、調査対象として扱っていない。

昭和五十二年年度の教員数の調査結果を、昭和四十九年度の調査結果と比較すると、公立及び私立の幼稚園、公立高等学校全日制課程の大幅な増加を示している一方、公立中学校、公立高等学校定時制課程の減少が著しい。教員数の増加率を見ると、公立、私立とも幼稚園が最も大きく(公立幼稚園一・二五倍、私立幼稚園一・二三倍)、次いで公立盲・聾・養護学校(一・二二倍)となっている。

一、学校種類別に見た教員数

表2 教員の男女別構成

	計	男	女
(公立)			
幼稚園	100.0(100.0)	0.5(0.2)	99.5(99.8)
小学校	100.0(100.0)	48.5(49.0)	51.5(51.0)
中学校	100.0(100.0)	69.5(70.9)	30.5(29.1)
高等学校全日制	100.0(100.0)	84.5(85.1)	15.5(14.9)
〃 定時制	100.0(100.0)	90.8(87.5)	9.2(12.5)
盲・聾・養護学校	100.0(100.0)	51.4(57.1)	48.6(42.9)
(私立)			
幼稚園	100.0(100.0)	10.3(9.3)	89.7(90.7)
小学校	100.0	25.0	75.0
中学校	100.0	26.5	73.5
高等学校(全日制)	100.0(100.0)	77.5(76.5)	22.5(23.5)

(注) () 内の数字は昭和49年度の調査結果である。

この比率を、昭和四十九年度と比較すると、公立・私立幼稚園、公立高等学校定時制課程、私立高等学校は低く、他の学校種類は高くなっている。教員の男女別構成を見ると(表2)、女子教員の占める比率は幼稚園で最も高く、公立幼稚園九九・五%、私立幼稚園八九・七%となっており、次いで私立小学校(七五・〇%)、私立中学校(七三・五%)で高い。

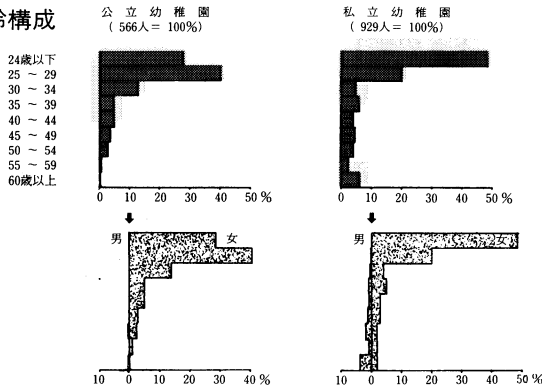
二、男女別構成ではどうなっているか

三、年齢構成はどうなっているか

1) 公立及び私立の幼稚園では二十歳の教員がそのほとんどで、それぞれ六八・九%、六八・五%を占めている。

教員の年齢段階別構成を見ると(図

図1 教員の年齢構成



(注) 実習助手を含む

公立の小学校及び中学校では、四十歳の教員の占める比率が高く、公立小学校で四五・四%、公立中学校では四六・四%となっている。公立高等学校(全日制)では「三十五歳〜三十九歳」の教員が一八・九%で最も多く、私立高等学校では「三十三歳〜三十四歳」の二四・一%を頂点に年齢が高くなるにつれて教員数は漸減しているが、「六十歳以上」は一・二・四%で他の学校種類に比べ特に高いのが目立つ。